

全体会・事例講演詳細

各講演における詳細内容は以下を想定しています。

全体会

基調講演

大学の質保証の今
- 第4期認証評価からその在り方を考える -
原 和世 様
公益財団法人大学基準協会 評価研究部 部長

2025年度から始まった第4期認証評価を中心に、大学・短期大学における内部質保証の重要性についてお話しします。そして、2月の中教審答申で示された質保証システム改革の方向性や国際的な動向も踏まえ、第三者評価の意義や質保証の在り方について一緒に考えていきたいと思います。

1-A

特別招待講演

学生の学びを促すアカデミック・アドバイジング
- 大学教育の質保証との関わりを考える -
清水 栄子 様
愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 副室長
日本アカデミック・アドバイジング協会 会長

本報告では、学習支援の取り組みとしてアカデミック・アドバイジングを取り上げます。まず、その目的や役割を整理したうえで、アドバイジングの先進地である米国の事例を紹介します。続いて、日本における現状と展望を示し、あわせて教育の内部質保証との関わりについて考察します。これらを通じて、アドバイジングに際して教職員に求められる視点と共有し、学びを促す仕組みについて皆さんと考える機会といたします。

2-A1 学生支援

事例講演

年々増加する合理的配慮業務
vs GAKUEN シリーズを活用した効率化
小桑 宏太 様
三重大学 学務部 学生支援チーム 主任

昨年10月のGAKUEN/UNIPA RX更新において各機能のアイデアを検討する際に、各学部から「合理的配慮の事務負担をシステム的に支援する仕組みが作れないか」との要望が非常に多く出ていた。仕様書の企画を始めてみると、システム上での表示方法や合理的配慮の情報の表示と制限の面で様々な苦労や調整を求められていた。そんな中、新たな機能として稼働を始めて約1年。これまでの取組と今後の展望についてお話しします。

事例講演

教職協働で支える学生の多様性
～ GAKUEN・UNIPA 活用による合理的配慮の情報連携～
森田 秋乃 様 / 松村 結唯 様
梅光学院大学 大学事務局長補佐 / 梅光学院大学 マネジメントスタッフ

本発表では、GAKUEN・UNIPAの「学生自由設定」や「Create Report」機能を活用し、合理的配慮が必要な学生に関する情報を教職員間で共有する取り組みを取り上げます。システムの標準機能のみを用いて、教職協働の支援体制を強化し、学生一人ひとりの多様なニーズに応える迅速な支援を目指した実践事例を紹介します。

事例講演

十文字学園女子大学におけるアドオン
ディプロマ・サブプリメントの導入と活用について（仮）
保岡 義明 様
十文字学園女子大学 教務部 部長

昨年度のユーザ研修会では認証評価制度についてお話をさせていただきましたが、今回は本学において2023年度（2024年2月）から導入し、本学内で活用を推し進めている「アドオンディプロマ・サブプリメント」についてその導入経緯から現在に至るまでの活用事例、そして2025年度からの第4期認証評価制度における内部質保証との関連においてどのような位置付けとして考えているかをお話させていただきます。

2-A2 業務効率化～その先へ～

事例講演

RPA活用によるカスタマイズ削減のその後と
新しい取り組み
中原 学 様
京都外国語大学 総合企画部 情報システム課 課長

RPAを活用し、最小限のカスタマイズでGAKUENを導入して4年。GAKUENに留まらず、RPAの活用をいかに拡大していったのか。DX推進、生成AIの活用など、最近の取り組みを交えてご紹介させていただきます。

事例講演

廣池学園における
ランサムウェア感染からの復旧と今後の取り組み
加藤 国雄 様
学校法人廣池学園 法人事務局 情報システム部 情報システム課 課長

廣池学園は2024年8月にランサムウェア感染を経験しました。本発表では、被害発生から復旧に至るまでの対応を振り返るとともに、再発防止と情報セキュリティ体制強化に向けた今後の取り組みについて紹介します。

3-A1 組織変革と補助金活用

事例講演

補助金と大学・企業連携による短大改革
袁部 初 様
宮崎学園短期大学 総務部次長 学長補佐

宮崎学園短期大学は、収容定員460人と規模の小さい地方短期大学です。限られた教育資源のもとで学生に幅広い学びを提供するためには、学外の資源を有効に活用することが不可欠です。今回の研修会では、本学が昨年度採択された「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」の採択に至る経緯や現在の進捗状況をご紹介しますとともに、本学が参画する大学等連携推進法人や、企業・団体との連携の取り組みについてもご紹介いたします。

事例講演

実践的人材を本気で育成する
越境プラットフォームの構築
前川 悠 様
桐蔭横浜大学 企画室 兼 学長室 / 桐蔭学園法人事務局 主任

わが国の社会・経済の持続的発展に貢献する実践的人材の育成に向けて、これまで教育を質的に転換してきた、同じ機能を持つ大学が地域を越えて連携し、共通の課題解決に向けた量的転換、すなわち、持てる資源を共有し、越境学習や高次の高大接続システム開発等、より高インパクトの取組を進め、連携各大学の機能強化を図る、「実践的人材を本気で育成する越境プラットフォーム」について事例を共有いたします。

事例講演

地方小規模大学の「教育DX」と
「大学運営DX」推進と教学改革の取り組み
村山 賢哉 様
共愛学園前橋国際大学
国際社会学部部長 兼 デジタル共創学部設置担当学長特命補佐

地方小規模大学では、学内リソースの少なさゆえに教育面においても大学運営面においてもデジタルを活用していくことが必須となっています。「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」の採択を受け、そこでの取り組みとその後の展開についてご紹介いたします。また、デジタルを基軸とした新たな学部を設置認可を受けたことをふまえ、今後の地方小規模大学におけるデジタル×教育の展望を皆様と共有したいと思います。

3-A2 業務効率化～なから始める？～

事例講演

学びと職員のデジタル化と大学DX
電子教科書で進める変革への狙い
中村 稔典 様
京都先端科学大学 情報センター 部長

本学では2018年からUNIPAやGAKUENを基盤に大学のDX化を推進し、教育・業務のデジタル化を実現してきました。次のステップとして電子教科書を導入し、学びの質向上と職員業務の効率化を同時に進める意識変革をめざしています。本発表では、更なる進化と狙いとしての大学DXの取り組みを共有します。

事例講演

生成AIを活用した教務事務のカイゼン
～業務効率化・創発時間確保・部下育成の一石三鳥を目指して～
木本 在躬 様
京都橋大学 教学事務部 教務課 課長

教務の現場では、ルーチン業務や教員・学生対応に忙殺され、新規提案や自己研鑽をする暇もなく、ただ眼前の業務をこなす「実務に埋もれる」状態になりがちです。この問題を打破すべく、本学では生成AIを利活用した「業務カイゼン」に取り組んでいます。チャットボットでの学生対応や生成AI×Python活用、生成AIでの各種アンケートの評価分析など…。この「業務カイゼン」によって業務効率化・創発時間確保・部下育成の「3匹の兎」を追う本学の取組をご紹介します。

※プログラムについては変更の可能性がございます。あらかじめご了承ください。